

社会福祉法人 種の会 アルテ子どもと木幼稚園
〒164-0001 中野区中野 1-59-5
Tel 03-3365-0602
ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>

えんだより
2022.
2



ArteKodomotoKi



お知らせ

- 来年度の土曜日利用/延長利用の申請について

毎年2月中旬に次年度の申請手続きを行います。現在ご利用の方に次年度の申請書と就労証明書をお渡し致します。4月以降、新規でご利用される方は事務所までお声掛け下さい。

- 年間行事予定でお知らせしています通り、生活発表会は19日(土)開催の予定です。実施方法に関しましてはコロナ感染状況を見ながら検討して参ります。詳細が決まり次第、お知らせ致します。

February 2 2022						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2 音楽あそび	3 節分	4	5
6	7	8 発育測定	9 音楽あそび	10 運動あそび 0歳児健診	11 建国記念の日	12
13	14	15	16 音楽あそび	17 0歳児健診	18	19 生活発表会
20	21	22 避難訓練	23 天皇誕生日	24 運動あそび	25 誕生会	26
27	28					

※音楽あそびのひとみ先生が出産のため、3月末まで石塚みずき先生が担当します。
(音楽あそびは火曜日から水曜日に変更になります。)



成長のらせん階段

園長 山田寿江

コロナ禍での対応、保育参観と個人面談、保護者懇談会へのご参加ありがとうございました。Zoomでの保護者会は初めてでしたが、「臨場感がありました」と嬉しい声もいただきました。進級や就学に向けて、基本的な生活習慣を見直すタイミングとなったかもしれません。お子さんの支えとなりつつ、心配しすぎないことも大切です。「できてるよ」「見ているからね」と励まして、自信やこれからへの期待を持てるようにしていきたいですね。

葛藤する時に人は成長する

困った時に「助けて」が言えることも大切です。泣く、叫ぶ、甘える、ヘソを曲げる、悪態をつく、暴れるなど子どもは全身で表現します。新しい環境での頑張りや緊張はエネルギーを使いますから、ご家庭でのエネルギー補給も必要です。どんなに小さな子どもでも、もやもやした感情を受止めてもらって少しずつ心の整理ができると、どうしたらよいのかを自分で考えて切り替えていけます。新しい環境に慣れるまでは大人だって戸惑いや葛藤がありますから、「弱さ」を上手に表現できるといいですね。人は成長し続けるもの、自分なりのペースで成長の階段を上がっていきましょう。

偉い人って、どんな人？

「園長先生って一番偉いんでしょ？」と言う4歳児さんに、「偉い人って、どんな人？」と聞くと、「何かしてくれる人」なのだとか。「ご飯を作ってくれるお母さん」も偉い人、「お掃除してくれる人」「一緒に遊んでくれる人」も偉い人のようです。

年長さんにも聞いてみました。「お金持ち」「優しい人」という答えの他に、「隣にいてくれた友だち」「弟、パジャマの上着をもってきてくれたから」「悪いことをした時に、ごめんなさいって言える人」という答えもあって、ご家庭で「偉いね」と、声掛けする微笑ましい光景が目につきました。

偉いは、一般的に「地位や身分が高い」と認識されていますが、「人間として立派、優れている」という意味もあり、子ども達が自分なりの解釈で言葉の意味を理解していることに感心しました。



劇『ながくつをはいた猫』に取り組んでいる年長さんから「王様」という答えもあり、「どうして？」と尋ねると、「冠をつけているから」とイメージを口にしていました。役の人柄や身なり、仕草などを考え工夫をこらしている様子が伺えます。

生活発表会へ向けて

0・1歳児は、リズム遊びを中心に楽しんでいます。音楽は心を軽やかにし、身体をほぐしています。

2・3歳児は、絵本からつながるごっこ遊びで、リズムカルな言葉の掛け合いを体験しています。

4・5歳児は、物語の世界を劇で表現します。役になりきり自分とは別の誰かになることは、新しい自分を発見する力にもなっています。またひとつ、成長の階段を上がります。

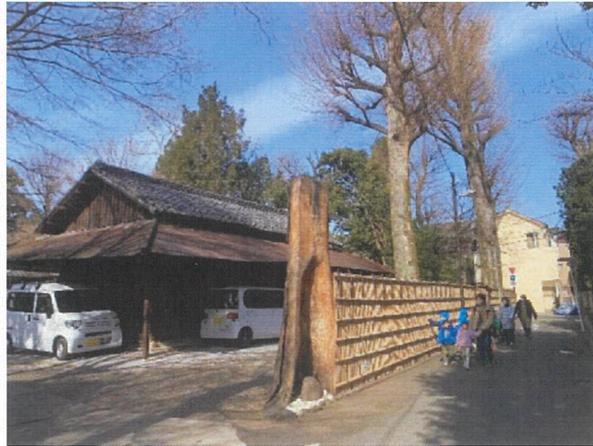
コロナ禍ですが、会場で観覧していただけるよう準備を進めています。どうぞご期待下さい。

【たきびの歌】

たきびの歌の発祥の地は、中野区上高田3丁目にあるのをご存じですか。
“♪かきねの、かきねの、まがりかど〜♪”と子ども達はこの歌を1月の歌として楽しんできました。この垣根は今ではなかなか見られなくなりました。「垣根って何だと思う？」と訊ねると、「柿の種だよ」と答える子どもが多く、中には「柿のお姉さんだよ」柿ねが、お姉さんのねえだと勘違いしている子どももいました。とても豊かな想像力です。



柿のお姉さんイメージ画（4歳ナノ組）



本物の垣根はとても立派でした。

「長いね！」「硬くて痛いよ」「知ってる！これ竹だよ」
「竹を冷やして、電子レンジにいれたら、作れるんじゃない？」

都心とは思えない光景です。“たきび”の歌の歌詞を感じながら熱唱して歩きました。

表紙の絵は『誰もゴール出来ない迷路』です。5歳ナノ組さんが描きました。オリジナル迷路を作り、友達にやってもらう遊びが流行っています。この迷路には通路に鍵や障害物が描かれました。「絶対、誰にも出来ないように難しくするんだ！」と集中して作り上げました。

主任 黒木



※今月の園だよりでは、生活発表会につながる“今、夢中になっている遊び”を紹介しています。

Ato 0

保育者が絵本を持ちながら「お座りトンっ！」と言うと、保育者の前にちょこんと座る子ども達。“今日は何の絵本かな”と興味津々の様子です。朝のお集りでは、絵本を読んだ後に『おはようのうた』を歌います。



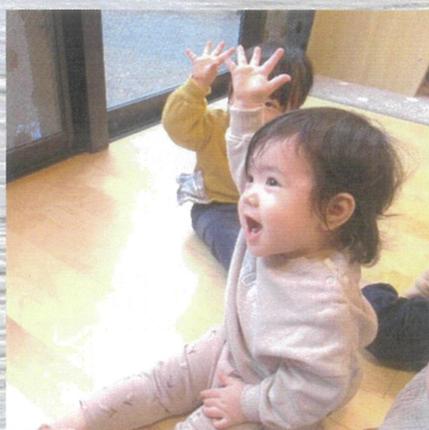
♪先生おはよう みなさんおはよう～
保育者が歌い始めると同時に、子ども達も手を叩いたり身体を揺らしたりし始めます。“おはよう”の部分でペコっとお辞儀をして可愛らしく踊る子もいます。また、中には♪ね、ね、遊びましょう～という一部分が気に入り、お集りが終わった後も「ね、ね、」と口ずさむ様子もあります。同じ空間を共有しながら、みんなで歌う楽しさや面白さを味わっています。

「〇〇ちゃん！」「ハイ！」
「〇〇くん！」「ハイ！」

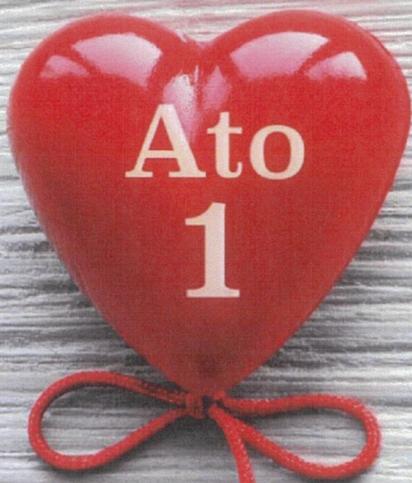
自分の名前を呼ばれると、得意げな顔で手を挙げる子ども達。0さいアート組は今、『おへんじ』に夢中です。

「Aちゃん！」「…。」

あれ？Aちゃん今日はおへんじをする気分ではなかったみたい。するとその瞬間、横から「ハイ！」とBちゃん。お友だちの名前にも元気よくおへんじ！自分の名前とお友だちの名前の違いは理解しているBちゃんですが、保育者とのやりとりが楽しい様子。満面の笑みで「ハイ！」と何度も繰り返しておへんじを楽しんでいました。



少しずつ言葉が増え、保育者や友だちとの関りがより一層深まりました。音楽や遊びを通して、自分を表現することや人と関わることの楽しさを味わっていけるといいですね。

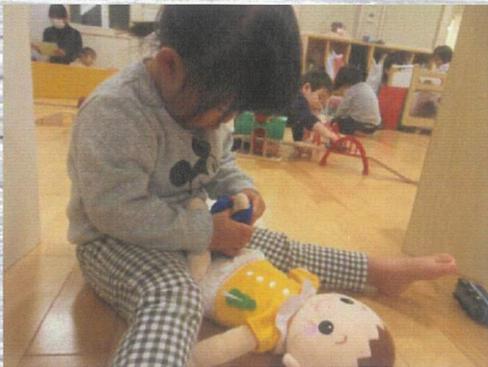
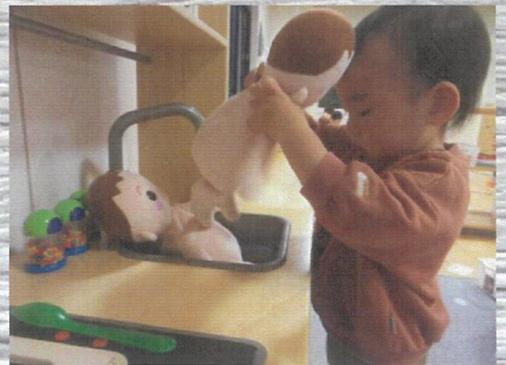


冬の寒さを物ともせず、子ども達は毎日散歩に出かけ、屋外で元気いっぱい遊んでいます。公園では縁石の上を落ちないように歩いたり、大きな切り株によじ登ってジャンプをしたり。日頃、サーキットでやっていることと似た動きをして遊ぶ姿が見られます。「まてまて、しよう」と保育者に追いかけられたり、「〇〇ちゃん、まて〜」と友達を追いかけたりして走り回ってしまいます。

救急車、呼びましょうか？

追いかけてっこをしていて転んでしまった友達を発見したHくん。すぐに駆けつけ「救急車、呼びましょうか」と一言。怪我には至らず、そこからお医者さんごっこが始まりました。「どこが痛いですか」と尋ねると転んだ子ども膝を指して痛さを演じています。「バンソウコウしまーす」と手当をして無事終了。そのやりとりが面白かったので、見ていた他の子ども達も一緒になり、自ら地面に転んで同じことを繰り返して遊んでいました。

時には保育者を患者に「今日は、どうしましたか」と遊びが始まります。初めはすぐ注射を打って終了していましたが、回を重ねるごとに問診も手当ても細かくなってきました。聴診器を当て、熱を計り、薬を飲ませたり、冷えピタを貼ったり。注射を打った後に止血絆創膏を貼る真似をした時は、よく見て覚えていることに感心させられました。



いい湯だな

ままごとコーナーにあるシンク。そこに服を脱がせた人形を入れ「見て、お風呂だよ」とSくん。Mさんは人形にズボンを履かせてあげようと奮闘していました。このように、自分がしてもらい、見たり聞いたりしたことを見たり遊びやごっこ遊びの中で再現しています。

だいこんは、コンコンコンだよ

食べるの大好きな子ども達。野菜にも興味を持ち、絵本をじっくり見たり、『やさいのうた』『きのこ』などの手遊びを楽しんだりしています。これまでは給食で残すことの多かった野菜料理も「だいこんは、コンコンコンだよ」と歌のフレーズを口にして美味しそうに食べることもありました。そんな友達の姿に影響を受けて食べてみようとする子もいて、子ども同士のつながりが深まってきたことを嬉しく感じています。



Pico 2

～クモさんのお家はどこ？～

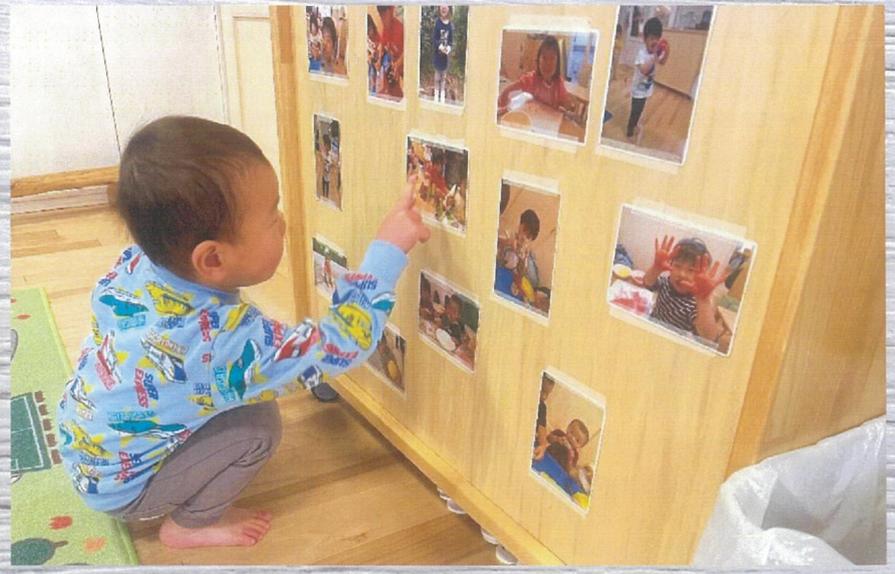
木の溝や壁の穴を見つけると、うずくまって「あっくモの巣！」「クモさんここにいるかなあ？」とよく探しています。Tくん「クモさん忙しいんじゃない？巣をつくってるんだよ。」Hくん「えーそっかあ……。」
どうやら『くもさんおへんじどうしたの』に出てくるクモを想像してお話していたようです。読み聞かせをすると、「忙しかったのです！」とナレーター役になってセリフを言って楽しんでいます。

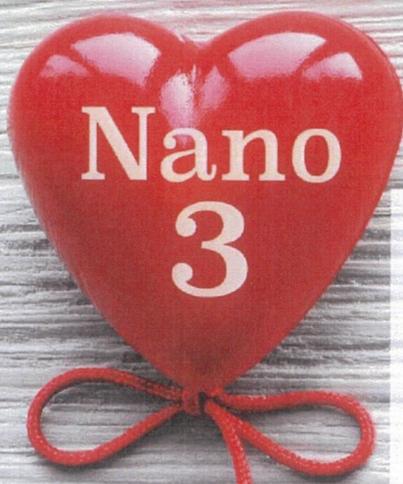


～お店屋さんごっこ進化中！～

“何かになりきる”ことが楽しいピコ組さんは、おままごとで“お母さん”や“お店屋さん”に変身して「ちょっと待ってね～。」「どれにしますか？」と料理をつくったり、運んだりして遊んでいます。そんな中、新アイテム“お金”が登場！「なにこれ！お金？」「数字書いてある！これ10円？」と子ども達は興味津々です。「お金はお家にあるんだよ。」「これで何買おうかな。」とお金の存在やお金があると物が買えることを知っている子もいました。

これまでは「これちょうだい」「はい、どうぞ。」と簡単なやりとりでしたが、今では「いくらですか？」「100円です。」とお金や数字を意識したやりとりが増えてきています。友達の写真をジュースに見立てて、ポチッと指で押して「これでジュース買うの～」とAくん。大人の真似っこに磨きがかかっています！





Nano 3

～どうぶつサーカスはじまるよ～

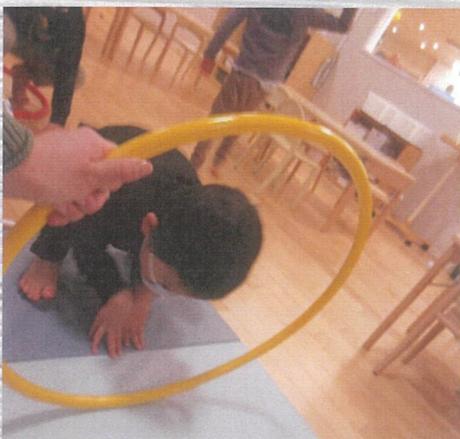
ライオンやうさぎ、様々な動物のお面をかぶって役になりきる子ども達。

「Aくんはうさぎさんです！」と意気揚々に自己紹介をします。お面をつけていることでいつものAくんとは違う雰囲気になっていました。保育室に置かれたフラフープを次々に跳んでいきます。あまりの勢いに周りもびっくりしたり、触発されて「ぼくも！」

「わたしも！」と一緒にフラフープを跳んでみたり……その様子にどんどん子ども達も集まり壮大なサーカスが始まりました。



そして「ぼくはへびさん！」と、へびのお面をつけたBくんがやってきました。周りがびよんびよんとフラフープを跳ぶ中、Bくんはへびになりきり床をによろよろと這っていきます。“置かれたフラフープは跳ぶもの”、その考えはBくんの演技力によって覆されたのでした。そこから子ども達は思い思いの動物になりきり表現をしていきました。時には「車になる！」「ティラノサウルス！」となりきり、子ども達の発想は止まりませんでした。夢中になり何度も何度もやっていく中で、こんなに寒い冬でも汗だくに！“自分ではないものになる”楽しさを感じることが出来たようでした。

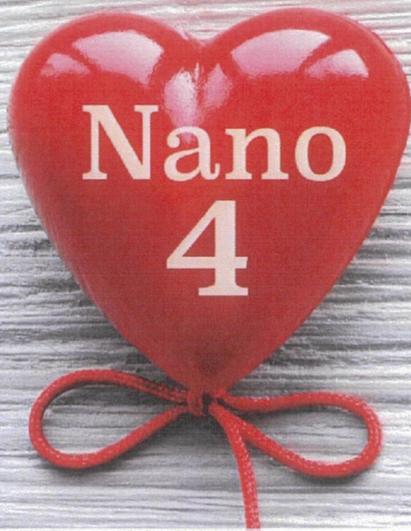


～先生役は僕にまかせて！～

日頃から保育者のことをよく見ている子ども達。給食や水分補給の時にはお茶を自分で入れてみようとしたり、上着が着られなくて困っているお友だちを見ると「やってあげようか？」と手伝ってあげたりする様子があります。それが遊びの中にもよくあります。

「どうぶつサーカスはじまるよ」という声で子ども達が集まってきて遊びが始まると、マイク片手にいつも保育者がやっていた司会者の真似をして遊びを展開していったのです。「お名前はなんですか？」「なんの動物さんですか？」と質問をしていき、マイクを向けられた子どもが答えていきます。「分かりました！それではどうぞ！」と合図を送りどんどん動物たちが技を披露していきました。それだけでは終わらず、保育者が支えていたフラフープを「これやりたい！」と。子ども達がすべての役になり楽しんでいました。

子ども達の“見て吸収する力”や吸収したものを“再現していく力”は本当に素晴らしく、そこから日々の成長に繋がっているのだと感じました。子ども達の“やってみたい”を大切にしてこれからも過ごしていきたいです。



ブレーメンに行くのは…

昨年のクリスマスの時に、金管五重奏で音楽劇「ブレーメンの音楽隊」が行われました。それがきっかけで発表会の題材に繋がりました。原作には『ろば、ねこ、いぬ、おんどり』の動物が出てきますが、子ども達からは「なんで他の動物は出てこないんだろう」という疑問が。違う動物だったらどんな仲間が出てくるだろう？みんなに訊ねてみると「とら！ねずみ！うさぎ！……へび！」どこかで聞いた名前が並びました。そう、十二支です！直近で十二支の絵本を見たからでしょうか。子ども達から出たこの4匹でブレーメンを目指すことになりました。これが4歳ナノ組のオリジナル劇の誕生秘話です。

それぞれ仕事が出来なくなった動物達が主人に捨てられるのですが、このオリジナルの4匹についても訊ねてみました。「ねずみは、チーズが集められなくなっちゃったんじゃない？」「へびは、穴を掘って種を植えてたんじゃあかな」と次々に面白いストーリーが出てきます。オリジナルの登場人物に加えて、内容もオリジナルになりました。劇あそびをしながら、日々色んなアイデアや面白いセリフが出てくる子ども達の発想力に驚かされ、みんなで大笑い♪発表会に向けて楽しんでいます！



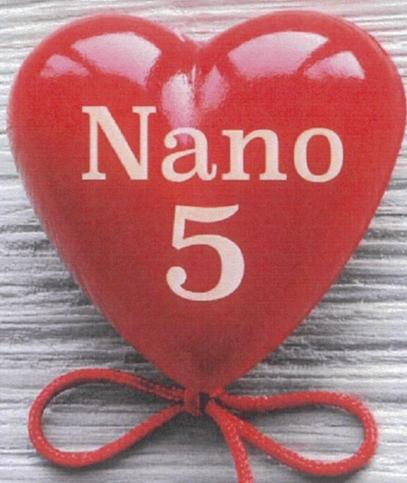
ドレスアップすると！

ホールにある、衣装や仮装グッズはみんなのお気に入りです。お姫様に変身できるドレスや、アフロヘアや小人のベストなど様々です。5歳児クラスのお友だちを筆頭に仮装大会を楽しんでいます。以前も行っていたミュージカルごっこも引き続き楽しんでいます。歌詞に合わせてお辞儀したり、手を差し伸べたりと自分で考えた動きや、お友だちの振付を参考に真似をしてみたり……。

でも、ちょっぴり恥ずかしさはまだまだ残っている4歳ナノ組の子どもたち。仮装はしたいけれど舞台の上に行くのはちょっと……。と、渋ったりお友だちと一緒にならやる！と言ったり、“やりたい気持ち”と“恥ずかしい気持ち”がいたりきたりしています。そんな様子を知らずに5歳ナノ組の子ども達が勢いよく入ってきます！慣れた様子で衣装をまとい、思いのまま振付をして踊っています。4歳ナノ組の子ども達は、そんな姿に圧倒されつつも、憧れをもって一緒に踊って楽しんでいます。

そして最後のポーズ

美味しいところをもっていかれました。



Nano 5

HさんとMくんは楽器の希望が重なってしまいました。シンバルは1つしかありません。どうするのだろうと様子を見てみると、2人はシンバルとボンゴを交互に使っていました。楽譜を一緒に見てタイミングの声掛けをしたり、ボンゴを2人で仲良く演奏したりすることもあります。本番でどちらがシンバルを演奏するのかもきっと2人で話し合っているでしょう。やりたいという気持ちがあふれていてとても楽しそうです。



楽器あそび

合奏曲の『エンターテイナー』は候補曲を聴き比べて子ども達が決めました。やりたい楽器をイメージするために先生たちの演奏を聴いてみると、演奏の最後が揃ったことに「すごい、ぴったり！」とびっくり。「楽器やりたーい。」とすぐに演奏したくなり、いろいろな楽器にチャレンジしました。



劇遊び

最後まで候補に残ったのは『浦島太郎』『ジャックと豆の木』『長靴をはいた猫』の3作品。多数決で決めると『浦島太郎』は1人で他の2つはほぼ同人数でした。『浦島太郎』に手を挙げたRくんは亀に乗って海に入れることを不思議に思ったのだそうです。

劇は『長靴をはいた猫』に決まりました。「どうして猫がしゃべるの？」と意見が出た時に、絵本に流れ星が描かれていることにSくんが気付きました。「お父さんが死ぬ前に流れ星にお願いしたんじゃない?」「きっと猫が息子を助けてくれますようにって願ったんだよ。」きっとそうだよと意見が一致しました。楽しく想像しながら劇遊びを楽しんでいます。

めれたしめれたし?

裏が白紙の紙芝居を用意しました。初めの数枚のシナリオをみんなで考えて担任が文字を書くと「続きは自分たちで書く!」と子ども達。セリフづくりを子ども達に任せてみることにしました。「こんこんこんと どあをろっくしました」と紙芝居の裏に書いてあります。ハッピーエンドのラストシーンには、「めれたしめれたし」何を書きたいのかが伝わってきて思わずニコリ。聞き違いや思い違いに気づき、正しい言葉を知るきっかけにもなっています。自分たちでセリフを考えたいという気持ちに、子どもってすごいな〜と感心しました。



Lunch & Snack time

食育だより

季節の分かれ目の時、体調を整えましょう。

2月3日は節分です。季節を分ける日で、みんなが健康で幸せに過ごせるように願って悪いものを（病気など）を追い出す日とされています。2月はまだまだ寒い日が続きます。体の温まる食事を心がけて体調を整えましょう。

1月7日（新年子ども会）はお祝い膳でした。

お餅つき（花飾り）

お正月ちらし寿司

おせち三種



今が旬



大根・かぶ・白菜・小松菜など、寒い冬に耐えて育つ野菜には、ビタミンA・Cなどの栄養が豊富です。食物繊維を多く含むごぼうやれんこんはお通じをよくし、鍋料理やスープなどにすると体も温まります。

2月の献立と行事食

色々な大豆製品を知り、美味しく食べる

- 1・15（火）豆腐のつくね揚げ（豆腐・凍り豆腐）
- 3（木）節分〔昼食〕いわしのかば焼き
〔おやつ〕恵方巻
- 4（金）〔昼食〕ほうれん草の白和
〔おやつ〕きつねうどん（油揚げ）
- 7（月）〔おやつ〕きび団子風（きな粉かけ）
- 10・24（木）〔昼食〕小松菜の納豆和え（納豆）
〔おやつ〕おからドーナツ（おから）
- 25（金）お誕生日会
〔昼食〕赤飯・鶏のからあげ
〔おやつ〕お誕生日ケーキ



節分に豆まきをするのはなぜ？

年男が家主が炒り大豆をまき、家族は年の数だけ食べて病気知らずの一年を過ごすという豆まき。豆を使うのは、鬼の目を打つ「魔目」、鬼を滅する「魔滅」、マメに働くという語呂合わせなどからきているようです。

豆まきを予定されているご家庭もあるかと思いますが、豆まきの「豆」の取り扱いには十分ご注意ください。（豆は袋に入れたものをまく、子どもには食べさせないなど）

消費者庁より下記の注意喚起が出ております。ご確認ください。

食品による子どもの窒息・誤嚥（ごえん）事故に注意！

気管支炎や肺炎を起こすおそれも、硬い豆やナッツ類等は5歳以下の子どもには食べさせないで

豆やナッツ類など硬くてかみ砕く必要のある食品は5歳以下の子どもには食べさせないでください。咽喉や気管に詰まると窒息しやすく、大変危険です。小さく砕いた場合でも、気管に入り込んでしまうと肺炎や気管支炎になるリスクがあります。

（消費者庁公表資料 令和3年1月20日より一部抜粋）





2がつのほけんだより

2月3日は節分です。子ども達の「鬼は外！ 福は内！」の元気な豆まきの声で、子ども達の中や家の中にいるウイルスや細菌を全て外に追い出したいものです。成長とともに子ども達が丈夫で健康な体になるように願っています。



コンコンッ！ 咳のかぜ、引いていませんか？

寒さが深まり、あちこちから咳が聞こえてきます。乾燥が原因の咳もありますが、ウイルス性のものは飛沫感染によって広がっていきます。咳エチケットを守りましょう。また、マスクは清潔な物を着用しましょう。汚れたままのマスクを付けているお子さんがいます。汚れたら交換できる様に予備のマスクを準備しましょう。マスクには記名をして下さい。

おうちでのケア



洗濯物を干したり、加湿器をつけるなど、湿度を調節し、喉を潤しましょう。



咳がひどい時は、背中の下に枕やクッションを置くなどして上半身を高くすると呼吸が楽になります。



麦茶や白湯など、刺激のない飲み物で水分補給をこまめに行いましょう。



飲み薬について

症状が軽いから受診をせず、余った薬があるからと飲ませていませんか？子どもが飲みやすいように調整していたりします。効能が弱くなっている可能性があります。飲み薬は、自己判断せず医師の指示通り飲みましょう。

食品に混ぜる時は

オレンジジュース、りんごジュース、スポーツドリンク、ヨーグルトなどの酸味がある物は薬によっては混ぜることができません。

食品に混ぜる場合、残してしまうこともあるので、薬を混ぜる時の量は少なめにしましょう。また、ミルク、おかゆなど、主食には混ぜないようにしましょう。味の変化で食べ物自体を嫌いになってしまう可能性があるので注意しましょう。

どの飲ませ方をした場合も薬を飲んだ後は水や湯冷ましを飲ませましょう。



2月の予定

発育測定

2月8日(火)

0歳児健診

2月10日(木)

2月17日(木)



子ども達の世界は、いつも生き生きとしていて新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。

(レイチェル L カーソン 生物学者・作家 1907~1964)

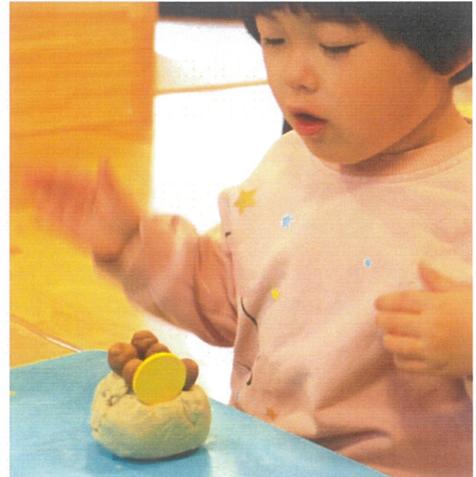
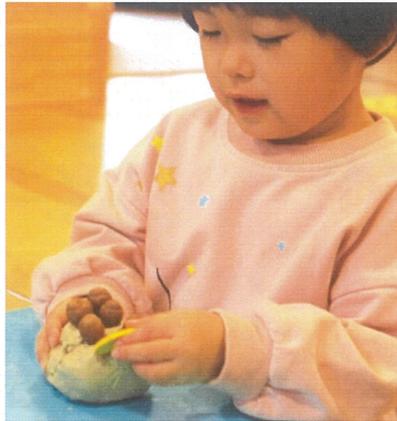
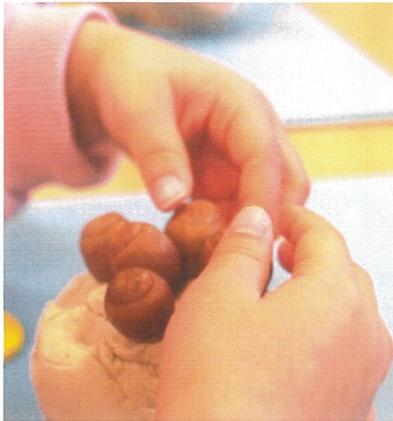
Atelier



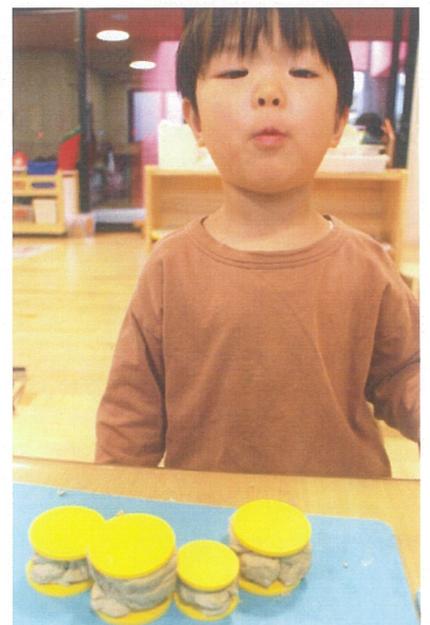
「素材と対話する子ども達」

園のエントランスウィンドウに、いくつかの素材と、それらと出会い子ども達が生み出した作品を展示しました。

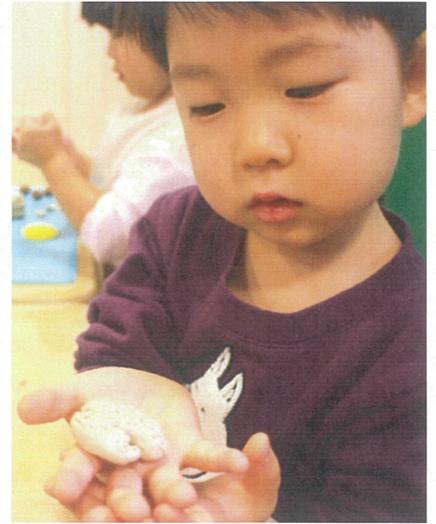
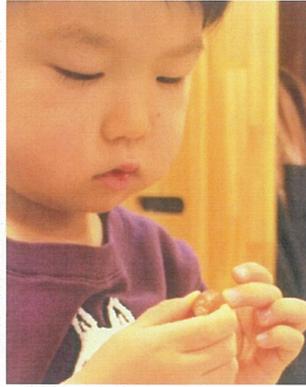
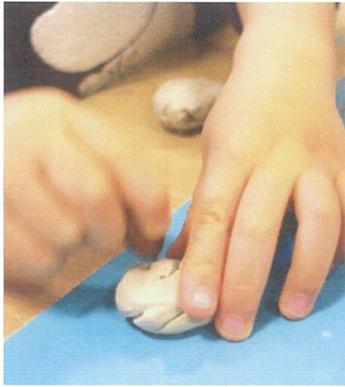
ドングリ、円形の積み木、そして粘土。2歳ピコ組の子ども達はそれらの素材とどう触れ合い、どんな対話をしているのでしょうか。



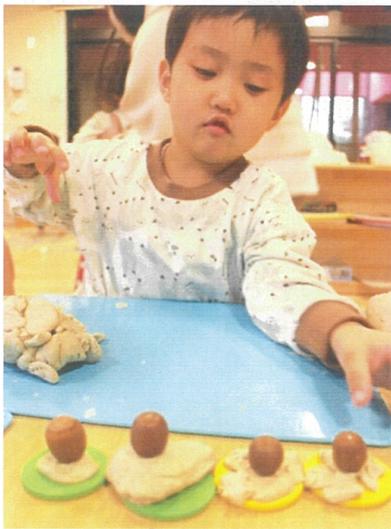
Aさんは、元々あった大きな粘土のかたまりにドングリを立てようとしてます。しかしAさんが選んだ大きなドングリは、先が丸くなかなか粘土につきません。それでも何度もチャレンジするうちに力加減も分かり、ひとつまたひとつと立てていきます。そして左の写真は最後の五つ目のドングリを粘土に押しつけ、立つかどうかドキドキしながらゆっくりと手を離す瞬間です。無事に立つと、次はその脇に円形の積み木を一枚斜めにさし込みます。この時はギュッと力を入れてさし込むと、しばらく押さえて勢い良くパッと両手を離します。素材をつけることの中で、粘土の手応えを感じたAさん。最後には出来上がった作品を片手で持ち、ズッシリとした粘土の重みも実感していました。



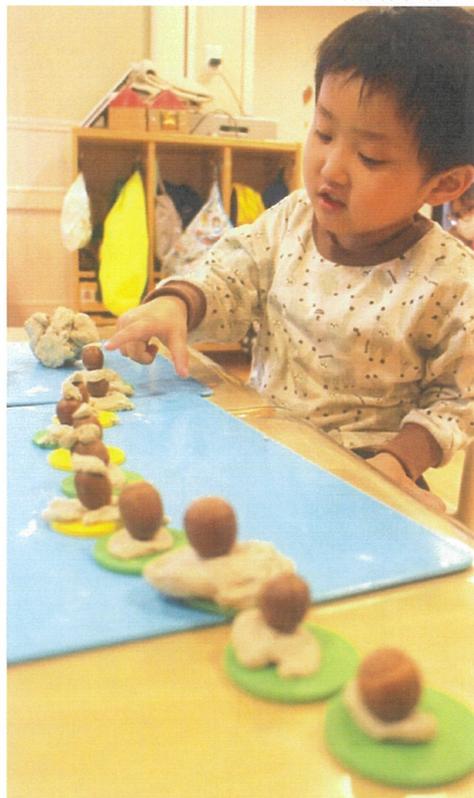
素材をハンバーガーに見立てたSくん。2枚の板で粘土のかたまりを挟み、ギュッとつぶそうとします。両手がふるえるほど力を入れますが、粘土はびくともしません。指で押せばへこむのに挟むとダメ。それでもあきらめず、今度は机の上に置いて上から押してみます。粘土のかたまりの存在を身体で感じながら、大小四つの黄色いハンバーガーができました。



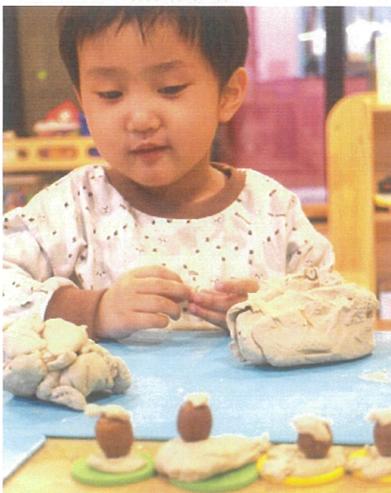
おやおや？ Donguriを使って何かをしています。KくんはDonguriを素材としてではなく、道具として使っています。先の尖ったDonguriを粘土に刺すと跡ができることを発見。粘土に残った穴だけでなく、Donguriの尖った先の感触も、指先で慎重に確かめています。そして再び跡をつけると、大事そうに「これ見て、ポツポツの穴ができたよ」と教えてくれました。



Sくんは積み木と粘土、そしてDonguriを使って不思議な形を作り始めます。積み木の上に粘土その上にDonguriを重ね、同じ形を四つ作りました。並べてみると、ひとつアイデアがひらめきました。それはDonguriの上にさらに小さな粘土を乗せること。やってみるとなかなか良い感じになったことが、Sくんの表情でわかります。楽しくなってきたSくんは、さらに数を増やします。



「1、2、3、4、5、6…」
たくさん並ぶと、なんとも言えないリズムが生まれたり、意味が生まれたり、さらにそこに物語が生まれファンタジーの世界が広がります。Sくんはこれを「Donguriでんしゃ」と名づけ、最後まで丁寧に粘土の帽子をかぶせ、できあがると満足そうに眺めていました。



自然物であったり、積み木や粘土のように目的のあるものであったり、物には決まった顔があります。しかし子ども達は様々な物と出会いながら、それらの持つ垣根を軽々と飛び越えて行きます。そしてそれらを、どれもが魅力あふれる「素材」として自分の側に引き寄せ、一人一人のやり方で楽しんでいます。これからの時代に必要な力は、きっと子ども達が見せてくれた「決められた意味や価値にとらわれないモノ（物や物事）の見方から生まれる柔軟な発想力」に違いないことを、2歳ピコ組の子ども達は教えてくれました。（一然）

